

議 長

続きまして、青木議員の一般質問を行います。6番青木議員。

6番
青木議員

それでは、通告順に従いまして一般質問をさせていただきます。
若者定住に向けた施策について、という事でございます。

まず、現在の日本の人口の現状について述べさせていただきます、それから本題に入りたいと思います。国立社会保障人口問題研究所は2060年の人口が8,674万人にまで減ると、日本の将来人口推計を公表致しました。2010年の1億2千800万人に比べ、50年間で4132万人の減となり、又、65歳以上の割合は2010年の23%に比べ、2060年には39.9%に達し超高齢化社会が更に進むとされています。約3人に1人が高齢者となります。又、2060年の人口8,674万人の年齢比は0歳から14歳791万人、率で9.1%。15歳から64歳4,418万人、50.9%。65歳以上は3,464万人の39.9%となるようでございます。このように少子高齢化の状況は益々進んでいきます。特に、近年少子化の進行については大きな社会問題となっています。その問題としては出生率の低下が上げられています。晩婚化や、結婚しない人、或いは出来ない人と様々な要因が考えられています。国の対応にしても大きく改善する見通しが現在のところ立っていないのが現状であります。又、出生率の推計についてですけれども2010年が1.39、今年度の2012年1.37で、50年先の2060年は1.35と推定をされております。ここ数年、回復傾向の為にこのような現在と変わらないような推計になったようでございます。又、人口維持する目安とされる2.07を下回る状況は、この先ずっと続くようございます。さて、川本町の7月末現在の人口は3,708人です。第5次川本町総合計画の中で平成33年の人口目標を3,300人。平成43年の人口目標を2,800人としています。単純推計人口と比べると平成33年、10年先でありますけれども400人、平成43年で700人と多く目標が掲げられています。高齢化率は33年で50%、20年先の43年で45%と約半数が高齢者という推計が出ています。何れにしても厳しい状況が予想されますので、益々若者定住政策を進めなくてはなりません。川本町も若者定住策として子育て支援等に力を入れています。このような取組は全国どこの自治体も同様な事をしていきますので、本町と致しましても他町に負けないように第5次総合計画の実現の為に重点施策の4本柱として医療福祉の充実、雇用の場の確保、居住空間の整備、子ども教育の充実と定め、目指すべき将来像、繋がりや温もりの中で豊かに暮らせる町、小さな町で出来る事を本町の将来像として実現に向けて頑張っていかなければならないと思っております。若い子育て世代の人達が住みたいという環境づくりが大切ではないかと思っております。それは、若者向け住宅、病院、子育て支援環境が充実している事だと思います。昭和58年、59年、60年にかけて因原地区に建設された八幡平住宅は、建てられた当初より若い人達が住み、現在も多

6 番
青木議員

くの若い世帯の家族が住んでいます。又、平成13年に整備された若者住宅10室は、いつも満室状態のようです。空き室を待っていると言う事をよく聞きます。何とか対応できないものか伺います。

先ず、具体的には若者住宅の今後の予定について。2点目として公営住宅等長寿命化計画の中で平成33年度に5戸建設を計画しているとあるが、前倒し出来ないのか。又、所得制限のない住宅整備が今求められていると思うが考えを伺います。この所得制限のないという住宅については、この5次総合計画の中にも書かれております。以上、見解をお伺い致します。以上です。

議 長

それでは、青木議員の「若者定住に向けた施策について」に対する答弁をお願い致します。番外森口住民課長。

番外森口住
民課長

それでは、青木議員の「若者定住に向けた施策について」の答弁を致します。若者が定住する条件としましては、様々な要因がありますが、定住者を受け入れる側として入居希望者のニーズに応えられる住宅の確保対策についてお答えを致します。4月現在の町営住宅の保有戸数は、総戸数324戸を保有しております。この内、入居は、241戸で83戸が空室となっておりますが、この空室の内35戸は、老朽化により住宅として相応しくない状況にあります。従って入居可能な住宅としましては、全体で206戸となり、その内48戸が空室となっております。この他に三原定住促進住宅3戸、久座仁定住促進住宅12戸、因原若者定住住宅10戸を保有しております。これら3地区25戸の住宅につきましては、全て満室でございます。議員がご指摘の通り、入居待ちの状況にあります。しかし、八幡平住宅では、12戸が空室となっておりますし、改良住宅では12戸が、五反田住宅では14戸が空いております。入居可能な住宅は全体では48戸を保有しておりますので、若者定住住宅としても活用していただきたいというふうに考えております。

次に「公営住宅等長寿命化計画」で平成33年度に5戸の住宅建設を若者定住住宅に前倒し出来ないか。又、所得制限の無い住宅整備等についてお答えを致します。平成33年度5戸建設計画の住宅につきましては、住居が2階建て以上の住宅に入居されている方が、高齢等により日常生活に支障が生じることを想定し計画したものでございます。又、この長寿命化計画で問題視しておりますように、保有しております公営住宅の大部分が耐用年数を経過した建物の老朽化が見受けられております。計画では、個別改修する住宅と老朽化により用途廃止する住宅に分けて整備する予定であります。計画では単年度3千万から4千万の経費を見込んでおりますので、新規建設には財政的に大変厳しい状況にあります。

最後に「所得制限の無い住宅整備」についてであります。本年の3月の定例議会で「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」の改正に伴いまして、町営住宅設置条例及び町営改良住宅管理条例の一部改正を行ったところであります。この改正に

番外森口住民課長 よりまして、八幡平住宅及び因原若者定住住宅を除き、住宅の入居条件の緩和を図り、これによりまして単身者でも入居が可能となりました。又、所得制限につきましては、公営住宅は低所得者の住居確保面から、基本的には所得制限が必要であります。しかし、この所得制限につきましても、条例改正を行って平成25年度より、より幅広い層の方が入居出来るよう所得制限の緩和を行う予定でございます。尚、参考までに現在所得制限のない住宅としましては、三原定住促進住宅及び因原若者定住住宅の2箇所がございます。以上でございます。

議長 いただいたの答弁に対しまして、再質問ございますか。6番青木議員。

6番青木議員 今回の答弁をお伺いしましたけれども、結局、若い人が入る住宅は無いという事でございます。と言いますのは、今現在でも町内の方が結婚されて我々にとって相応しい住宅が無いという事で、おそらく町外へ出られたと思います。そうした面で、やはり若者住宅が10棟ありますけれども、それをやはり年に1棟ぐらいずつでも増やしていく事を考えていただきたいと思っておりますけれども、因みに現在、若者住宅は待機者が何人ぐらい居られますか。

議長 番外森口住民課長。

番外森口住民課長 ご質問にお答えする前にですね、所得制限の無い住宅につきまして三原と因原を言いましたが、久座仁が洩れておりましたので訂正をさせていただきたいと思っております。それから若者住宅に対します空き待ちの事につきましては、申し訳ございませんけれども把握しておりません。

議長 再質問ございますか。6番青木議員。

6番青木議員 この件については、待機しているという事をお聞きする訳でありますので、そこら辺りそういった事例がずっとあるとするならば、やはり増やしていくべきではないかというふうには思っております。八幡平住宅にしてもそれなりに若い人が入っておられますけれども、今後、入られるとしたらやはり部屋の改装なりそういった事をしない限りはなかなか若い人は入りにくいのではないかなというふうには思っております。今のところ33年度に町営住宅を新築という事は出来ないというふうな事だろうと思っておりますけれども、やはり全体的に人口増に向けた定住対策、空き家対策を始めとしてやっておりますけれども、やはり若い人が魅力有る町として川本町に住みたいという事を町長さんも言っておられますけれども、その為にはやっぱり若い人に向けた住宅というのが一番重要ではないかなというふうには思っております。因原の八幡平住宅を先ほど申しましたけれども、58、59、60ですか、その頃建てまして、本当に若い人が入って大部分、若い子ども達が川本西小へ通われた

6 番
青木議員

という事を因原地区は賑やかであったと、その後、若者住宅が出来たという事で、子供達が居るという事は地域を明るくします、という事で八幡平が確かに空いているという事は、先ほど言われましたけれども、おそらく若い人はどうもそこへ入りたくないという事で、おそらく外へ出られるのではないかなと思いますので、いろいろ財政的な面もありますけども、若者住宅をやっぱり1棟でも2棟でも増やす方向でやらないと、なかなか若い人の定住というのは出ないのではないかなというふうに思っておりますけども、再度、如何ですか。

議 長

番外森口住民課長。

番外森口住
民課長

ひとつ新規の平成33年度に5戸の住宅建設が財政的に難しいような受け止め方をされているようでございますが、これは先ほどの答弁で申し上げましたように、この5戸につきましては将来、高齢者の為のという事を考えておりまして、これの前倒しをというお話しでございましたので、それにつきましては現在計画しております10ヶ年計画の中で毎年3、4千万ぐらいの改修工事が必要でございますので、なかなか難しいというお話しでございますのでよろしくお願い致します。又、若者定住でございますけれども、議員仰いますように保有戸数と入居者のニーズというものは必ずしも一致していないのが現実だというふうに私も捉えております。入居する要件につきましては、それぞれ住宅のあります周辺環境、地理的条件、病院でありますとかスーパーでありますとかコンビニだとか、又、入居される部屋の大きさとかいろいろニーズがそれぞれお有りになるだろうというふうに思っております。仰いますように因原の若者住宅に対する入居が退去されますと、直ぐ入られるという状況からしますと仰いますように入居希望者が居られるという実態は有るのだというふうに考えております。そういう中で要望にお応えしていきたいという思いはありますが、町が保有しております現在の老朽しております住宅につきましては、そこに入居されている方々に対する住居環境の整備を早急に行う必要がありますので、現状としましては現入居者を優先的に対応させていただきたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。

議 長

再質問ございますか。6番青木議員。

6 番
青木議員

33年に5戸は大変すみません。ちょっとわかりました。それで中期財政計画では平成28年度以降は、だいたい1億円の財政の不足が生じると見込まれているという事がありますので、なかなかその時点では難しい状況が出るのではないかなというふうに思っております。それで結局、先ども申しましたけれども若い人が結婚しても町外へ住んでいるという事があります、という事はやっぱり魅力のある住宅が無いという事なので、そういうと

6 番
青木議員

ころを真剣に考えないとなかなか若い人が川本町に住むという事は難しいのではないかというふうに思っております。3月の議会の町長さんの答弁の中で「川本に働く場所が無くても、大田・江津は通勤距離内である。時間にすれば30分圏内の所に働く場所がある。若い方が喜んで川本に定住する事が出来るような生活環境の条件整備を行えば住めると考えている。その為の環境整備・子育て支援、これを行っていきたい。」と、そういうような答弁がありまして、その答弁は本当に評価して良い答弁だなというふうに思いますが、今申しましたように若い人のニーズに合うような住宅がない限りやはり定住政策は一般の人は住めるけれど若い人はなかなか川本に留まらないのではないかと思っておりますので、このことの件については絶対作れとは申しませんが、やはりそういった事を見据えた中での若者定住というものを考えていかない限り、ちょっとなかなか子供達が増えないのではないかなというふうに非常に危惧をしております。それで一点ここでちょっと先般の講演の中で良い話がありましたので皆さん方にお話しをしておけばなという事がございますけども、子供達の住む環境というのは、やはり因原の八幡平、或いは若者住宅周辺というのは非常に子どもさんが多いという事で、我々が小さい時には外で走り回って遊んでおりまして、江川も渡っていたというふうな状況、或いはいろんな遊びをしていた中で現在、自分がその時の事を覚えているし体が覚えていて、何時でも何でも出来るというふうな状況にあります。先般、島根県の教育委員会、或いは川本町教育委員会主催で開催された「子供達の体力が危ない。今、私たちが出来ることをみんなで考えませんか。」という地域指導者、保護者の皆さんを対象にした「アクティブチャイルドプロジェクト」といったような「子どもの体力向上支援事業、みんな元気なかわもとっ子プロジェクト」の研修会がありました。その中で幼児期から運動していた子どもは大人になっても運動が出来て、運動を楽しみ子どもの頃、運動していた健康だった子は大人になっても健康は持続できるというふうな事がありました。やっぱり運動する事は体力向上に限らず人間関係を豊かにし、社会性が生まれ、つまり挨拶等が出来ると。又、基礎代謝を高めて意欲や気力の充実、或いは脳が活性化される等の話がありました。これはほんの一部ではありますが、そういった面でやはり子どもがどんどん減っている中で何とかそういった若者住宅等を増やしながらか、子どもを増やすという事の施策を考えない限り、おそらく疲弊する方向に向かうのではないかなというふうに思っておりますので、この8年間で財政もようやく再建をされて3月末、基金も14億5千万。それと自由に使える基金11億5千万が貯まった訳でありますけれども、やはりそういった事を考え28年で財政推計をすると不足が生じるという事を考えれば、あまりこれをやれ、あれをやれという事は出来ませんが、そこら辺りを総合的に今後考えていただいて、やはり若い世帯の人達を川本町に住ませる環境、そういったものをもう少し考えていただきたいなど。因みに役場の職員の皆さん方も将来結婚される方が何人か居られると思っておりますけれども、そういった方はどうい

6 番
青木議員

う方向性で考えておられるか、そういった人達の見解もやっぱり聞いていただければおそらく分かると思いますので、そういう状況の中では私と致しましてはやはり若い世代の定住をもうちょっと真剣に考えるべきであるというふうに思っておりますので、最後に町長さん、先ほども申しましたけれどもそのように答弁をいただきましたけれども、そこら辺りを十分に今後、皆さん方と話をさせていただいて前向きに考えていただかないとちょっと推計を見ますと10年、20年後といったらほぼ100人ぐらいかなというふうに5次総合計画の中で見ますという事で、ちょっとどうにもならないという事がありますので、考えていただきたいと再度よろしくお願い致します。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

若者の定住対策で、この住環境の整備というのは大変重要な課題であるというふうに認識しております。そうした中で今、課長の方からありましたように現在、空室となっております48戸、これは一応整備された部屋であるというふうに聞いております。そういう事でもありますのでここを優先的に先ず入居してもらおうという事で、新しく若者向けの住宅は当面新築は考えてないという事でもあります。そうした中にありましてもこれから川本に一戸建ての家を建てるといような元気な若者がどんどん出てきて欲しい訳ではありますが、そうした建てやすい新築をするには町として建てやすいような支援、制度これをこれから考えていきたいという事も検討しておりますので、一つの若者対策として又、新たに提案する時期がありますのでよろしくお願いしたいと思っております。

議 長

6 番青木議員。

6 番
青木議員

先ほども申しましたように町外へ結婚して出られたという事例もありますので、そこら辺りをもうちょっと本当に真剣に捉えていかないと、なかなかそういった若者定住というのは前に進まないのではないかとというふうに思っておりますので、今後又、いろいろと皆さん方とも話をしていきたいというふうには思っておりますのでよろしくお願い致します。以上です。終わります。

議 長

これをもちまして、青木議員の一般質問を終了致します。

々

ここで午前中の会議を終わります。

午後は1時00分より会議を再開を致しますので、よろしくお願いを致します。どうもご苦勞様でした。

(午後0時02分)

